



2008 今昔館展示模型



2007 西武庫園地リフォーム



2006 N氏の山荘建設



2004 琵琶湖別荘建設



2003 香住古民家移築



2002 大飯古民家移築



2000 朽木研修所離れ

美杉山荘 建設プロジェクト

古式製材法

このプロジェクトは、現地在杉や桧の人工林だった事や、接道のない土地で外部からの資材搬入がおおごとになる理由から、なるべく現地にあるものを材料にして進めています。今流行の“地産地消”の建築的実験ともいえるかも知れませんが、現地にありものといっても、要は生えている杉や桧をいかに使うか？ということになり、伐採・乾燥を経て、丸太のまま使うのが最も手取り早い使い方となります。柱や梁にはなんとか丸太のまま使えますが、床や屋根などの面状の部分には、どうしても板状の材料が欲しくなります。丸太を使い勝手のよい四角や板状に製材することが必要になりますが、ここは山の中…。人力でどこまで丸太を“製材”できるか、挑戦しました。



割ってはみたものの…
使えるかどうかは別問題。

丸太の小口に切り込みを入れ、木製の大きなクサビを打ち込みます。ミシミシと木目に沿って割れてきたら、横からクサビを打ち込み順に割っていきます。そこそこ乾燥した丸太なら、4M材でも割合簡単に割れました。但し、大問題が発生しました。「杉・桧は振木」という話はどこかで聞いていたのですが、木目に沿って割れた材料は、見事に振れていたのです。立ち木をよくよく観察すると、表皮の模様が時計回りに振れているようにも見えます。4Mで45度程度振れる丸太が多かったので、この製材法は2M程度の材でないと、振れて使い物になりそうにありません。



振れて見えるでしょうか？
南半球では逆廻りかな？